

# 心理学

## 教員名

教養・医学教育大講座 心理学 准教授 石井 拓  
保健看護学部 教授 増田 匡裕  
非常勤講師 恒松 伸

## I 一般学習目標

人間を理解する上で、その行動の理解は最も中心的なことの1つである。心理学Iの講義では、行動の基本的な法則と、その応用について学ぶ。心理学IIの講義では、“心”と呼ばれているものが行動の法則の上にもどのように成り立っているかを学ぶとともに、“心的機能”の諸側面の捉え方や実像について学ぶ。また、心理学実習では、科学としての心理学の基本的な研究方法を学ぶとともに、心理検査の体験を通じて自己理解・他者理解を深める。

## II 個別学習目標

### 心理学I

1. 心理学での行動の定義を言えるとともに、それに照らして行動とそうでないものとのを区別できる。
2. 心的概念はなぜ行動の説明には使えないのかを説明できる。
3. 行動の研究法について概説できる。
4. 行動の分類について概説できる。
5. 生得性行動を例示できる。
6. 馴化と鋭敏化について説明できる。
7. レスポンデント条件づけの基本的な現象について説明できる。
8. レスポンデント条件づけを応用した行動変容技法を説明できる。
9. オペラント条件づけの基本的な現象について説明できる。
10. オペラント条件づけを応用した行動変容技法を説明できる。
11. 概念形成について行動分析学に基づいて説明できる。
12. 複雑な行動の獲得と維持に関係する行動の法則を説明できる。
13. 行動分析学に基づいて言語行動について説明できる。
14. 行動療法、認知行動療法、心理教育を説明できる。

### 心理学II

1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係を概説できる。
2. 行動の脳内基礎過程を説明できる。
3. 感覚・知覚にひそむ“心のはたらき”について例示できる。
4. 俗に動機、欲求、フラストレーション、葛藤、適応(防衛)機制と呼ばれるものについて、概説できる。
5. 主なストレス学説を概説し、ストレスと健康への影響、また対処法を例示できる。
6. 知能の発達と経年変化を概説できる。
7. 行動の発達の原理、遺伝と環境の影響、および各発達段階の特徴を概説できる。
8. パーソナリティの理論と測定法について概説できる。
9. 言語的および非言語的コミュニケーションを説明し、文化による違いを例示できる。
10. 話し手と聞き手の役割を説明でき、適切なコミュニケーションスキルが使える。
11. 人間関係における“欲求”と行動の関係や、その他の心理的要因の影響を概説できる。
12. 主な対人行動(援助、攻撃等)を概説できる。
13. 集団の中の人間関係(競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ)を概説できる。

### 心理学実習

1. 心理学の実験・検査を実際に行ない、行動科学的な研究方法を習得する。
2. 実験・検査結果に基づいて推測し、議論を展開する思考法を習得する。
3. 実験・検査結果をレポートにまとめ、科学論文の書き方の基礎を習得する。
4. 実験・検査を通じて、自己理解・他者理解を深め、対人理解の実践的方法を習得する。

### Ⅲ 教育内容 講義項目と担当者

- ・心理学Ⅰ（Ⅰ期） 担当者 石井 拓  
講義日程表参照
- ・心理学Ⅱ（Ⅱ期） 担当者 石井 拓  
講義日程表参照
- ・心理学実習（Ⅱ期） 担当者 石井 拓・増田 匡裕・恒松 伸  
講義日程表参照

### Ⅳ 学習および教育方法

- ・心理学Ⅰ・Ⅱ  
スライド・プロジェクターや板書等を用いた講義により、基礎知識と考え方を学ぶ。また、演習として講義時間内に随時レポートを作成して発表する。講義時間外には、随時紹介される資料を読む。
- ・心理学実習  
1 グループ約8人のグループに分かれ、原則として1回1テーマで実験・検査を行う。レポートは各自作成し、原則として1週間以内に提出する。

### Ⅴ 評価の方法

- ・心理学Ⅰ・Ⅱ  
各学期末に実施する筆記試験を90%、授業内の課題実施と発表状況を10%の割合で加味して評価する。また、出席が2/3に満たない場合は不合格とする。
- ・心理学実習  
すべての回に出席し、すべての課題についてレポートを提出した場合に評価する。各レポートを100点満点で評価し、その平均を総合評価とする。

### Ⅵ テキストおよび参考書

心理学Ⅰ：坂上貴之・井上雅彦『行動分析学 行動の科学的理解をめざして』有斐閣アルマ

心理学Ⅱ：授業内で随時紹介する。

心理学実習：木下富雄（編集代表）『教材心理学 心の世界を実験する〔新装版〕』ナカニシヤ出版

## 講 義 日 程 表(心理学 I)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
1	R4.4.8	(金)	3	心とは何か	心理学教室	石井
2	R4.4.22	(金)	3	観察法と実験法	心理学教室	石井
3	R4.5.6	(金)	3	行動の分類、生得性行動	心理学教室	石井
4	R4.5.13	(金)	3	馴化と鋭敏化	心理学教室	石井
5	R4.5.20	(金)	3	レスポナント条件づけの基礎	心理学教室	石井
6	R4.5.27	(金)	3	レスポナント条件づけと行動療法	心理学教室	石井
7	R4.6.3	(金)	3	複雑なレスポナント条件づけ	心理学教室	石井
8	R4.6.10	(金)	3	レスポナント条件づけの展開	心理学教室	石井
9	R4.6.17	(金)	3	オペラント条件づけの基礎	心理学教室	石井
10	R4.6.24	(金)	3	強化随伴性	心理学教室	石井
11	R4.7.1	(金)	3	刺激性制御の基礎	心理学教室	石井
12	R4.7.8	(金)	3	刺激性制御と概念形成	心理学教室	石井
13	R4.8.26	(金)	3	反応遮断化理論と選択行動	心理学教室	石井
14	R4.9.2	(金)	3	言語行動と文化随伴性	心理学教室	石井

## 講 義 日 程 表(心理学Ⅱ)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
1	R4.9.26	(月)	2	心理学の一般的な諸領域とさまざまな立場	心理学教室	石井
2	R4.10.3	(月)	2	心と脳	心理学教室	石井
3	R4.10.17	(月)	2	感覚・知覚と心理物理学	心理学教室	石井
4	R4.10.24	(月)	2	“動機づけ”と呼ばれているもの	心理学教室	石井
5	R4.10.31	(月)	2	“ストレス”と健康	心理学教室	石井
6	R4.11.7	(月)	2	知能の測定と経年変化	心理学教室	石井
7	R4.11.14	(月)	2	遺伝と環境	心理学教室	石井
8	R4.11.21	(月)	2	パーソナリティの理論と測定法	心理学教室	石井
9	R4.11.28	(月)	2	言語・非言語的コミュニケーションとそのスキル	心理学教室	石井
10	R4.12.5	(月)	2	対人認知	心理学教室	石井
11	R4.12.12	(月)	2	対人行動	心理学教室	石井
12	R5.1.16	(月)	2	集団の影響	心理学教室	石井
13	R5.1.18	(木)	2	心の健康と心理療法	心理学教室	石井

## 講義日程表(心理学実習)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担当	
1	R4.9.16	(金)	3~5	ガイダンス		石井・増田・恒松	
2	R4.9.30	(金)	3~5	グループに分かれ、以下の各テーマについてローテーションを組んで実習に取り組む <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミューラー・リヤーの錯視</li> <li>・短期記憶</li> <li>・心理尺度の構成</li> <li>・鏡像描写</li> <li>・行動観察</li> <li>・性格の認知</li> </ul>		石井・増田・恒松	
3	R4.10.7	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
4	R4.10.14	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
5	R4.10.28	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
6	R4.11.4	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
7	R4.11.11	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
8	R4.11.18	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
9	R4.11.25	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
10	R4.12.2	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
11	R4.12.9	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
12	R5.12.16	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
13	R5.1.6	(金)	3~5			石井・増田・恒松	
14	R5.1.13	(金)	3~5		予備日		石井・増田・恒松